

平成18年度筑波高等学校評価結果

目指す学校像	<p>1 教職員と生徒の対話等を通して、日常生活における生徒間の交友関係を観察し、いじめの防止及び健全な生徒が明るく楽しい学校生活が可能な教育環境を構築する。</p> <p>2 生徒が各教科・科目や類型の適切な選択と補充指導や個別指導を通して一人一人の個性や能力の伸張を図り、確かな学力の習得及び教科指導の改善充実を図る。</p> <p>3 他を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性と本校の教育実践目標にある正しい判断力を養い、自主的・主体的行動ができるような指導の充実を図る。</p> <p>4 自己の進路適性理解と就業体験等を通して職業観・勤労観を育て、個々の生徒の特性等に応じた進路実現を図るとともに、生涯学習社会の変化に適切に対応できる資質能力（生きる力）をもった有用な社会人を目指し、地域に期待される生徒を育成する。</p>		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着を図るため、各学年毎に小テストを実施したことにより、生徒の基礎学力の育成を図ることができた。 英語検定、漢字検定等の検定を受検することにより学習への意識付けができた。 進路ガイダンスなど各種の指導をすることにより生徒の進路意識を向上させることができた。 遅刻指導を実施することにより遅刻者が減少した。 粘り強く頭髪服装指導をしたことにより制服の着装状態や頭髪が改善した。 	<p>各種検定試験の奨励による学習意欲の増進及び基礎学力の向上</p>	<p>授業填補により授業時数の確保に努め、宿題や小テストを利用して到達度を確認し、家庭学習の動機付けと習慣化を図る。</p> <p>生徒の能力に応じたきめ細かな個別指導を実施し、放課後等の補充指導を充実させ、成績不振者の減少を図る。</p> <p>評価方法を見直し、各教科の副教材等の選定及び開発の工夫改善に努め、生徒の学習意欲を喚起するため、効果的な授業を実践している教員の指導方法を全体のものとなるよう校内研修会を充実させる。</p> <p>英語検定・漢字検定等の意義等を理解させ、取得のための受験準備の過程で教科学習への意欲を増進し併せて一般常識テストを活用し、学習の習慣化を図る。</p> <p>検定合格の達成感を味わいさせ、新たな目標の動機付けを行い、学習成果の向上を図る。</p>	B
	<p>類型の特性を活用した進学可能な学力養成</p>	<p>進学コースでの数学は文系・理系に分け、各々の特性を生かした計画的・継続的な進学課外を実施する。</p> <p>理科、数学と芸術間の科目の適切な選択で同時授業を実施し、生徒の進路希望に適切に対応した教育課程を編成し、より効果的な進路実現を図る。</p> <p>1年次から小論文指導を定期的に行い、推薦入試における論文作成力を継続的に養成する。</p>	B
<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> さらに生徒の実態に即した指導方法や評価方法の工夫を重ねる必要がある。 規範意識の高揚を図り、さらなる指導の効果を上げる必要がある。 問題行動の未然防止に努める。 教育課程の研究に取り組み、より生徒に適した編成に取り組む。 部活動の活性化を図る。 各種委員会活動の充実と活性化を図る 	<p>職業観・勤労観の育成と充実した進路指導</p>	<p>生徒の職業観・勤労観の育成を目指し、インターンシップや「進路の手引き」を活用したLHRを計画的に実施する。</p> <p>自己の進路適性理解に向けた進路講演会、進路関係教材等の利用、卒業生による体験発表等を積極的に行う。</p> <p>各大学、短大への連携と積極的な働きかけ、各企業への訪問等を積極的に実施し、職場開拓に努める。</p>	B
	<p>基本的生活習慣の育成と部活動の活性化による人材の育成</p>	<p>ピアスや化粧の根絶などを目指して、定期検査、校門指導や巡回指導を通して適正な服装容儀指導の充実を図る。</p> <p>全職員の指導内容に関するコンセンサスと共同歩調を基盤とした指導方法を徹底する。</p> <p>読書指導や学校集会時を活用し、生徒自身が「人間としての在り方生き方」を自己認識できる指導を行い、生徒の本分を弁えさせるような工夫改善に努める。</p> <p>登校時指導、巡回指導、学年集会・全校集会の指導を徹底し、度重なる違反者に対しては保護者との連携を密にするとともに協力を要請し、学校・家庭が一致協力して再発防止等の指導に当たる。</p> <p>真摯な部活動を通して責任感、自立心や忍耐力を養い、規範意識を基盤とした自主的活動ができる人材を育成する。</p>	B

		豊かな心の育成とカウンセリングの充実	読書指導や挨拶運動や密度の濃い学校行事を通して学校への帰属意識を深める。 地域社会の諸団体と連携しボランティア活動等の体験的な学習を推進し、豊かなことと規範意識の高揚に努める。 生徒会活動や特色ある学校行事を通して、郷土を愛する心と愛校心を育成する。 校舎内外の美化に努め、清楚な学習環境を維持することにより生徒の豊かな情操を育み、環境美化の心を養う。 カウンセリングの定期的実施により欠席がちな生徒の学校生活適応を図り、校内研修会の実施と支援体制づくりを推進する。	B	
		家庭・地域社会の積極的な連携を図るPTA活動	卒業生の進路状況や在校生の進路希望状況、学校行事や部活動の成果等をPTA会報や通信により地域の小中学校等に情報を発信し、特色ある学校づくりについて地域社会の理解を深め協力体制をつくる。 学校評議員などの意見や助言を尊重した学校教育体制の見直し・再点検を積極的に実施する。	B	
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価	次年度(学期)への主な課題
教科指導	基礎学力の向上を図り、学習意欲を喚起する授業を展開する。	一人一人の学力を向上させる授業計画を立てる。		B	・多様な生徒に対応する指導体制の確立
		わかる授業を展開するために教材の工夫をする。		B	
		生徒が意欲的に学習に取り組むことができる評価法の検討をする。		B	
国語	基礎学力の向上を図る。	高校生としての基礎的な漢字とことばを繰り返し学習することにより定着させる。		B	・小論文の継続的、体系的な指導の確立 ・漢字検定、百人一首の指導の継続
		課題文を読むことを通して、文章を読み的確に理解する力を身につけさせる。		B	
	進路に応じた指導を強化する。	作文や小論文などの文章を書くことを通して、自分自身に対する理解を深める。		A	
		文章を書くことを通して、自己を表現する力を養う。		B	
	漢字検定の合格率の向上を目指す。	授業や小テストで練習問題を学習させる。		A	
生徒が興味を持って取り組む授業を目指す。	百人一首大会を通して、古典への興味を持たせる。		A		
地理歴史	基礎学力の向上を図る。	歴史用語を漢字で正しく表記できる力を養う。		B	・実力養成課外のための時間の確保 ・成績向上につながる不振者指導の工夫
		学力不振者に対する補習を実施する。		A	
	より良い指導法を探求する。	担当者間で教材の開発・活用法について話し合い、工夫改善を図る。 教科会等で授業展開の問題点・改善点について意見交換をする。		C B	
公民	基礎学力の向上を図る。	課題やノートを提出させ、定期的に点検する。		A	・実力養成課外のための時間の確保 ・成績向上につながる不振者指導の工夫
		生徒個々人の授業態度の観察や出席状況の把握に努める。		A	
公民	基礎学力の向上を図る。	「現代社会」の用語を漢字で正しく表記できる力を養う。		B	
		新聞記事やテレビ、インターネットから「現代社会」の諸問題を探求させる。		C	
	成績不振者に対する補習を実施する。		A		
公民	より良い指導法を探求する。	担当者間で教材の開発・活用法について話し合い、工夫改善を図る。		C	
		教科会等で授業展開の問題点・改善点について意見交換をする。		B	
公民	考查に偏らない総合的な評価に努める。	課題やノートを提出させ、定期的に点検する。		A	
		生徒個々人の授業態度の観察や出席状況の把握に努める。		A	
数学	基礎学力の向上を図る。	小テスト等を利用して学習の理解度を把握し、不十分な生徒へは補習を実施する。		B	・生徒が意欲的に学習に取り組むような授業展開や教材の工夫
		長期休業には基礎学力のための課題を出題し、学習させる。		A	
	進路に応じた指導を強化する。	少人数指導によるきめ細かな指導を行い、進路希望に応じた学習内容を精選する。		B	
		課外授業やセミナーを実施し、進学希望者の実力養成を推進する。		B	
	家庭学習の定着に努める。	定期考査ごとに問題点を点検し、家庭学習の習慣をつける。		B	

教 科		分かる授業への改善に努める。	授業公開や、内容、方法等について教科内で研究協議を通して、授業改善に努める。	B					
	理科	基礎的・基本的内容の理解と把握に努める。	ワークノートを利用して学習の理解度を確認し、不十分な生徒へは補習を実施する。 補習を必要とする生徒は、少人数指導を行う。各学期、数回実施する。その成果と課題を明確にし、次年度への改善点の検討を行う。	B B	B	・生徒が意欲的に学習に取り組むような教材、実験、観察、レポート等の工夫			
		授業中ノートをとらせその定着に努める。	定期的にノートの点検を行い、今何を学習しているのか把握させ、復習にも役立てる。	B					
		わかる授業への改善に努める。	教科内で授業内容・方法等について、研究協議する。	B					
		生涯体育に結びつくよう努める。	運動を通して楽しさや敏捷性、協力性を養い健全な体力づくりに努める。	B					
	保体	生きる力を養わせる。	心身の健康について理解させるとともに健全な精神を育てよう努める。	B	B	・体育のクラス形態（男女別2クラス同時・男女混合単独クラス）の検討			
		実技内容の精選に努める。	興味関心を高める教材の精選。 個々の能力に応じたきめ細やかな指導方法の工夫。	A B					
	芸術	表現と鑑賞能力を高める。	表現する喜び、楽しみを学習活動から体感させる。	B	B	・分かりやすい授業の工夫 ・プリントの活用方法の検討			
		芸術がわかる喜びを実感する授業に努める。	授業内容・方法等について教科内で研究協議し授業改善に努める。 各種研修会、発表会に参加し自己研鑽に努める。	B B					
		英語	基礎学力の向上に努める。	小テストなどを通して、基礎的な内容の定着を図る。 小テスト・定期テストの結果を参考にして、不十分な生徒へは補習を実施する。 自主学習を勧め、家庭学習の定着を図る。			B B B	B	・英検参加者の減少 ・進学クラス全員の英検受験 ・進学クラスの放課後課外出席率向上のための方策
			資格取得を目指す態度を養う。	英検資格取得のため、級別の講座を設け、放課後実施する。			C		
	英語がわかる喜びを実感する授業への改善に努める。		生徒の能力に応じた教材作成に努める。 各種研修会に積極的に参加し、教科内で発表するとともに自己研鑽に努める。	A A					
	多方面からの評価に努める。		定期テストだけでなく、提出物や授業態度等多方面からの評価に努める。 より良い評価方法を目指し、教科内で話し合いを十分に持つ。	A C					
	家庭	基礎的知識と技術の定着を図る。	被服・調理実習を通して「わかる自分・出来る自分」を確認させる。	B	B	・左記項目の実現に向けての方策			
		資格取得のための検定の推進。	文科省認定の被服・調理検定の合格を目指す。	B					
		生きる力の育成。	ホームプロジェクトを通して家庭での問題解決能力を養う。	B					
		ボランティア活動の推進。	家庭クラブ活動を通して社会貢献・ボランティアを実施する。	C					
	情報	基本的な技能の育成を図る。	ワープロ、表計算、Webメール、プレゼンテーションソフトなど、多くのソフトを活用する。	B	B	・個人所有パソコンの低い普及率をふまえた指導の工夫			
		情報活用の実践力を高める。	茨城県教育情報ネットワークを積極的に活用する。	B					
		情報社会に参画する態度を育てる。	情報検索、プレゼンテーションなどを通して、情報活用の有効性を感じさせる。	B					
資格取得の奨励。		情報利用技術検定試験のための指導をおこなう。	B						
商業	基本的な技能の育成を図る。	ワープロのテキストを使用し、技能の育成を図る。	B	A	・ワープロ検定合格率50%以上				
	情報処理の実践力を高める。	一太郎を使用し、実践力を高める。	A						
	資格取得の奨励。	ワープロ検定試験のための指導をおこなう。	A						

教務	授業時間の確保に努める	授業変更の明示・周知徹底をはかるとともに、欠課時数に関する連絡（授業担当者・担任・保護者）を密にする。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・実態にあった教育課程の編成 ・公開授業など校内研修の充実 ・生徒の実態に合わせた学力向上策 ・成績処理システム導入の検討
		填補による自習を減少するため、授業変更等を行う。	A		
	適切な教育課程の編成と運営に努める。	学級減と生徒の質の変化を踏まえ、より望ましい教育課程のあり方を検討し編成する。	B		
		将来のシラバス作成に向け年間学習計画表を充実させ、評価と結びついた学習指導ができるようにする。	B		
	校内研修に努める	公開授業・研究授業を実施し、学習指導の力量を高める。	C		
		各種研修会で得た成果や情報を共有するため、職員会議での報告や校内研修会の実施を推進する。	B		
	生徒の学習意欲を喚起し、学力向上に努める。	課題提出や小テストを通して、家庭学習の習慣化を身に付ける。	C		
		拡大学年や生徒との個別面談の時間を確保し、学習の実態の把握と改善に努める。	B		
成績不振者に対する適切な指導を行う。	教科担任とクラス担任の連絡を密にし、指導方針や方法の一元化を図る。	A			
	家庭との連絡を密にし、成績不振改善のための連携をとる。	A			
PCによる成績処理や事務処理の効率化をはかる。	教科・学年と連携をとり、定期的に補習課外を実施する。	A			
	定期考査・実力考査の成績処理の効率化と適性化を図る。	B			
進路指導	学年と連携をとりながら、進路指導における全体計画の作成に努め、進路指導の充実をはかる。	進路ガイダンス、職場見学、インターンシップ等3年間を見通した行事を計画する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・実力養成課外、学習セミナー参加者の減少傾向への対策 ・常識テストは進路指導部で出題
		年間HRの中に、「進路の手引き」を利用した進路の時間を組み込む。	B		
		一貫した指導体制の構築。	A		
	進路指導を通し、生徒の自己理解を深めさせ、自分に適した進路の選択力をつけさせる。	進路講演会、大学の模擬授業、卒業生による講話等を実施し進路意識を高める。	B		
		進学希望者に対して内容を充実させた実力養成課外、夏季学習セミナーを計画し、参加者の増加を図る。	C		
		毎月1回進路だより「羅針盤」を発行、進路情報の提供に努める。	A		
	大学・企業等との連携を深めて情報の提供に努める。	常識テストを実施し、1学年から進路意識を高める機会を増やす。	A		
		会社訪問を実施する。	A		
特別活動	学校行事を通して帰属意識、協調性、責任感を養う。	行事の意義を理解させ、全員参加を目指した指導の徹底を図る。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自主的な活動の醸成
	部活動への積極的な参加とその継続を図る。	各種委員会の活動の充実に努める。 歩く会、クラスマッチ、芸術鑑賞会等への積極的な参加を通して成就感、達成感を体験させ連帯感を養う。	B A		
生徒指導	安全で楽しい学校生活の実現に努める。	生徒の自主的、自発的活動が促進できるように顧問による適切な指導・援助を行う。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・頭髪・服装指導において、共通理解と継続的指導の必要 ・事故の未然防止に向けて、HR活動、総合的な学習の時間、道徳の指導の工夫 ・遅刻常習者の継続的指導
		強化週間を設けて校内巡視を計画し、問題行動の未然防止に努める。	B		
	基本的な生活習慣の確立と心の教育の充実を図る。	校門・校外での立哨指導を実施し、挨拶の励行や登下校時の生徒の安全を図る。	A		
		バイク通学者への安全教育の指導徹底を図るための講習会を実施する。	C		
禁煙教育と薬物乱用防止教育の充実に努める。	遅刻カードを利用した遅刻防止策を励行し、常習の生徒には特別指導を実施することで改善を図る。	B			
	規範意識の確立や服装・頭髪の適正化を目指し、全校集会・学年集会・HR等で周知徹底を図る。	B			
図書	図書館利用の活発化。	強化期間を設け、服装・頭髪・遅刻等の指導に全職員で対応する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会活動の活性化 ・生徒の読書意欲の向上
		喫煙防止講演会を開催し、禁煙教育の充実に努める。	A		
	読書意欲の向上。	ビデオやCD・ROM等の教材を授業やHR等で積極的に活用し、薬物乱用防止教育の徹底を図る。	B		
		毎日開館し、生徒への閲覧業務を充実させる。	A		
読書意欲の向上。	図書委員会の活動を推進し、図書館内の美化や図書の配置・整備を工夫する。	B			
	感想文・感想画の校内コンクールを実施し、優秀作品は県のコンクールに出品する。	A			
	定期的に「図書館だより」を発行する。	B			

保健 厚生	学校環境の整備及び美化に努める。	自然や環境に適した美化意識を高め、ゴミの分別処理や減量化、再利用に努める。	B	B	・学校環境の整備及び美化 ・学校生活不適應生徒の支援 ・健康に対する意識の啓発
	学校生活不適應の生徒に対する情報交換と支援の充実。	清掃用具の管理に努め、清掃指導を徹底する。また、清掃状況の点検に努める。	C		
		学校生活不適應の生徒に対して学年との情報交換を月1回行ない、早期支援と充実を図る。	A		
涉外	P T A活動の活性化。	夏季支部会のあり方を検討する。	B	B	・夏季支部会の出席者の増加
第一 学年	基本的生活習慣を養う。	日常の学校生活を通じて、基本的生活習慣や規範意識の確立に努める。	B	B	・基本的生活習慣の徹底 ・学習への取り組みの指導の徹底 ・進路に応じたきめ細やかな指導の工夫
		定期的に服装や頭髪指導を実施し、規範意識の向上に努める。	A		
		生徒の観察や相談連絡等を通して生徒の実態把握や生徒理解に努める。	A		
	基礎学力の向上に努める。	問題行動を防止するために、家庭との連絡を密にする。	A		
		予習・復習を励行し、授業に対する主体的な取組ができる態度を育成する。	C		
		小テストを活用し、家庭学習に取り組む態度を育成する。	A		
個々の進路希望に対応できる学力の養成に努める。	成績に関する問題点に対して、家庭との連絡を密にする。	A			
	個別の面談等を実施し、個々の能力や適性を把握し、目的に合わせた学習指導を行う。	B			
	適性に合わせた課外指導を実施し、進路意識を高める。	C			
		校外模試や各種検定試験を積極的に取り入れる。	B		
第二 学年	基本的生活習慣を養う。	日常の学校生活を通じて、基本的生活習慣や規範意識の確立に努める。	A	B	・授業態度向上のための対策 ・進路指導充実のための方策
		定期的に服装や頭髪指導を実施し、規範意識の向上に努める。	B		
		生徒の観察や相談連絡等を通して生徒の実態把握や生徒理解に努める。	A		
		問題行動を防止するために、家庭との連絡を密にする。	B		
	学力の向上に努める。	予習・復習を励行し、授業に対する主体的な取組ができる態度を育成する。	C		
		各種ゼミ・検定試験、その他の学校の企画・立案事項について周知徹底し、積極的に参加させる。	C		
		総合的な学習の時間を利用し、学力を充実させるとともに、幅広い知識・教養を身につけさせる。	B		
	能力や適性を把握し、目的を持った生活をさせる。	生徒一人一人に合った進路指導体制を充実させる。	B		
		総合的な学習の時間を利用し、進路について深く考えさせる。	B		
		個別の面談等を実施し、個々の能力や適性を気づかせ、目的を持った学校生活に導く。	B		
		大学進学希望者には、校外模試への参加を積極的に促し、的確な自己評価を踏まえ目標を持たせる。	B		
	個々の進路希望に対応できる学力の養成に努める。	実力養成課外・小論文指導・進路ガイダンス等を通じて、進路意識と学習意欲を高める。	C		
就職希望者には、確かな目的を持たせ、日々の学校生活の充実を図る。		C			
第三 学年	基本的生活習慣を養う。	卒業学年としての自覚を持たせ、生活習慣や規範意識の確立に努める。	B	B	・卒業後の社会人としての基本的生活習慣を確立
		遅刻指導、健康指導、服装・頭髪指導等を通して、自ら考え行動できる生徒の育成に努める。	B		
	進路目標の実現に努める。	進路指導の研修に努め、生徒一人一人に合った進路指導体制を充実させる。	A		
		生徒の希望や実態に即した学習計画を立て、進路意識を高め進路実現に努める。	A		

評価基準： A：十分よくできた B：どちらかといえば良くできた C：どちらかといえば不十分であった D：不十分であった